

## コロナ禍における東京薬科大学模擬患者研究会会員の活動報告

増田 多加子<sup>1</sup> 濱田 真向<sup>1</sup> 別生 伸太郎<sup>1</sup> 堀 祐輔<sup>1</sup>

### 1. はじめに

2020年1月6日、中華人民共和国湖北省武漢市における原因不明の肺炎の発生について厚生労働省は公表し、1月20日には、それが新型コロナウイルス関連肺炎であることを注意喚起していた<sup>1)</sup>。2月、3711人の乗員乗客を乗せたダイヤモンドプリンセス号内で新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の集団感染が発生し、陽性者は合計712人に達した<sup>2)</sup>。COVID-19の拡大とその対応策は、全世界で大きな混乱と問題をもたらし、今までの「当たり前」が消え、物流が途絶え、仕事が途絶え、外出が制限され、人との接触が制限された。これらの状況のことを、日本では「コロナ禍」と言うようになり、COVID-19の感染拡大とともに、2020年3月中旬より新聞等で使われるようになった。

本学では、COVID-19に関する情報を大学ホームページ（以下、HP）に掲載し、注意喚起を徹底していた。2月27日、政府より「全国すべての小学校、中学校、高校、特別支援学校への臨時休校要請」が表明されたことを受けて、本学も3月2日から3月31日までの期間、講義・実験の休講、大学院生の研究活動と課外活動等も全て休止と決定した。

2020年2月以降、大学での教育活動および研究活動など大学生活は大きく変化し、大部分の講義や実習はWebを用いた資料配布や動画で実施継続となった。一方、医療者教育では模擬患者（以下、SP：Simulated Patient/Standard Patient）の役割は重要でありSP非参加の実習は考えられない。5月から始まる実習のためには、4月からシナリオ勉強会を始める必要があるため、問題点を整理して対応することとした。すなわち、実務実習事前実習では、SPを相手に医療者としてのコミュニケーション能力である知識・技能・態度教育を対面で行う予定であったため、SPおよび学生の感染予防と同時に、有用なSP参加型実習の実施を検討することとなった。今回我々は、2020年と2021年の実務実習事前実習を通して、WebでのSP参加型実習の実施方法ならびに注意点について多くの経験をすることができた。また、実習中止の際のSPの意欲低下を回避するための対策についてもいくつかの知見を得たので報告する。

### 2. 本学の模擬患者研究会の活動概要

本学の模擬患者研究会（以下、SP研究会）の会員数は約100名であり、SP参加型実習を担っている。具体的には、4年次の実務実習事前実習では、薬局での患者対応・薬剤交付、病棟での初回面談・服薬説明、在宅医療、一般用医薬品（以下、OTC）の合計6場面で延べ約550名、実務実習事前学習Ⅱでは2場面で延べ約200名、2年次の多職種連携教育（以下、IPE：Interprofessional Education）ゼミナールでは延べ約80名、年間通して延べ約800名が、一人当たり年十数回に渡って実習に参加している。

SPの活動は、多くを厚意によるボランティア活動に依存している。コロナ禍でのSPとしての意

---

<sup>1</sup>薬学部薬学実務実習教育センター

欲の維持も重要な課題であると考え、ボランティアに参加する動機とその意欲維持のための何をすべきか検討した。

ボランティアとは、「営利を目的とせず、社会の福利向上のために自発的に貢献しようとする人々」と定義され、特に SP としてボランティアに参加する動機には、「自分の経験を生かしたい」「社会とつながりたい」「患者の立場として学生の成長を願う」「患者の立場を理解してほしい」「新たな知識を獲得したい」「自分でもできそう」等があり<sup>3)</sup>、その満足の測定には「組織からのサポート」「適材適所、集団一体感」「参加による自尊感情の獲得」の側面があると言われている<sup>4)</sup>。一方で、ボランティア活動には、ボランティアに基づく満足とバーンアウトの関係も報告されている<sup>5)</sup>。ここでいうバーンアウトとは、「過度で持続的なストレスに対処できず、張り詰めていた緊張が緩み、意欲が急に萎えてしまったときに表出される心身の症状<sup>6)</sup>」を言う。この突然のコロナ禍での急激な生活の変化はまさにこれに該当すると考えられる。ボランティアである実習が全面的に休止になり、社会生活において外出が制限された SP がバーンアウトに陥らないための対策を講じる必要があった。吉田らによると<sup>5)</sup>、「自己有用感」の高い方は仲間との良好な関係を維持することが、「自己有用感」の低い方はボランティア団体（組織）やそのスタッフとの有効な関係を維持することが、バーンアウトの予防につながるという。また、活動歴でみると、ボランティア活動初期の方が、バーンアウトとの関係があることが示されている。

コロナ禍に SP 研究会から発信した文書の内容を示す（表 1）。仲間との良好な関係を維持するための方法として、見慣れた校内の風景、SP 養成基礎講習会の様子や実習風景を載せた写真レター等を発信し、組織やスタッフとの良好な関係を維持するための方法として、エピソードやご意見を伺うことで、SP の経験を想起するよう心がけた。

また、本学の HP に「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応」が掲示されていることや、校内への入校制限をしていること、手洗い・手指消毒・マスク・会話の制限・食事等に細やかな注意喚起をしていることは、実習再開時には安心して協力を仰げるものと確信した。

2020 年度に SP 参加型実習は全て中止になったため、2021 年 2 月、実習を再開するにあたり、「実習参加の意向」「大学までの移動に関する気持ち」「実際に大学まで来られる可能性」「実習の参加方法の意向」の 4 項目を含む SP の実習参加への意向を伺った。それによると、会員のうち 3 割の方は大学に行って学生と対面で実習に参加したいと回答し、2 割の方はワクチン接種率が上がり、そのときの感染状況次第で大学に行って学生と対面で実習に参加したいと回答した。一方、退会を希望する方が若干名、数名は遠方で公共機関に不安があるため今は参加しないと回答した。

SP には手指消毒法をマスターしていただくことを目標とし、その他、マスクやフェイスシールド、アクリル板の設置、サーキュレーターを用いた換気等の感染対策で多くの不自由を強いることになったが、それも本学の信用に繋がるものと自負している。

実習が再開した後も、遠方

表1 コロナ禍でのSP研究会からの発信情報

日付	内容
2020年3月23日	2020年度 SP参加型実習 当面中止のお知らせの文書発送
2020年12月4日	2020年度 SP参加型実習の現状のお知らせの文書発送
2020年12月7日	エピソード・ご意見募集の文書発送
2021年2月11日	2021年度 SP参加型実習の意向に関する文書発送（返信2/26）
2021年3月22日	2021年度前期 実務実習シナリオ勉強会のお知らせ
2021年9月7日	2021年度 IPEシナリオ勉強会とIPE実習のお知らせ
2021年10月14日	2021年度 OSCEおよび直前実習とその勉強会のお知らせ
2021年10月14日	2021年度 SP研究会の近況報告 ～写真レター～
2021年11月5日	OSCEおよび直前実習の依頼発送

のために参加できないSPもいることを念頭において、今後も組織としての情報と、SP同士の良好な関係を維持できるような方法を模索していきたいと考える。

### 3. 2019年度以降のSPの活動実績

SP参加型実習の有用性については、多くの報告がある<sup>7)・10)</sup>。SPから有意義なフィードバックを得ることで、自分自身の専門知識の浅さやコミュニケーション能力を自覚するなど、学生には多くの気づきが与えられ、医療者としてのコミュニケーション能力を身につけていくのである。

本学のSP参加型実習の内容と参加回数、その動員数を見てみる(表2)。コロナ禍以前の2019年度の実務実習事前実習は、病棟で初回面談と服薬説明、薬局での患者応対・薬剤交付、在宅医療、OTCの6場面であったが、2020年度は全面的に中止し、2020年度のコミュニケーション教育は、Webを活用した動画配信と、在宅医療とIPEゼミナールは、教員と大学院生がSPの代行をし、ZOOMで実施した。

2021年5月より、病棟での初回面談・服薬説明の2場面と在宅医療の合計3場面でSP参加型実習を再開した。実習の場面は6場面から3場面に減少したが、実習回数については、1学科3クラスから密集を防ぐために4クラスに増やしたため、1場面あたり9回から12回の実習に増加した。

実務実習事前実習のシナリオ勉強会の回数は、コロナ禍以前と比較して、実習1場面に付き3回から密集を避けるために5回に増加し、その1回のシナリオ勉強会も、20名を超えないように配慮した。

さらに、コロナ禍以前は、6場面の実習いずれも8箇所のブースに実習1回あたり約9名のSPに依頼していたが、2021年度は8箇所のブースは変更せず、マスク・フェイスシールドの着用と2時間程度の拘束

時間を考慮して、マスク・フェイスシールドによる閉塞感による苦痛や、密集・密接に不安のある時にはいつでも交代可能なように、1回あたり12名に増員した。

2021年度の2年次のIPEゼミナールでは、SP参加型ZOOMによるオンライン

表2 SPの参加内容と動員人数(2019年以降)

年	月	実施内容	参加人数	実施回数
2019	4	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(病棟での初回面談・服薬説明)	49名	3
	5	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(薬局での患者応対・薬剤交付)	49名	3
	6	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(在宅医療、OTC)	49名	3
	6	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(在宅医療、OTC)	49名	3
	5	実務実習事前実習に参加(病棟での初回面談・服薬説明)	10名/回 延べ約180名	18
	5~6	実務実習事前実習に参加(薬局での患者応対・薬剤交付)	10名/回 延べ約180名	18
	6~7	実務実習事前実習に参加(在宅医療)	10名/回 延べ約90名	9
	6~7	実務実習事前実習に参加(OTC)	10名/回 延べ約90名	9
	9~10	多職種連携教育(IPE)ゼミナールのシナリオ勉強会	40名	3
	10	多職種連携教育(IPE)ゼミナールへ参加	40名 16名/1回 延べ約80名	3
	10	第12期 SP基礎講習会 開催	2名	5
	2020	11	実務実習事前学習IIのシナリオ勉強会	56名
11		OSCEのシナリオ勉強会	48名	6
12		実務実習事前学習IIへ参加	56名 延べ約180名	18
12		第11回 OSCE実施	本学SP研究会会員48名	2日
1~2		第13期 SP基礎講習会 開催	3名	5
10		第14期 SP基礎講習会 WEB開催	3名	5
11		実務実習事前学習IIのシナリオ勉強会	11名	3
11		OSCEのシナリオ勉強会	24名	3
12		実務実習事前学習IIへ参加	11名 延べ約80名	18
12		第12回 OSCE実施	本学SP研究会会員11名 + 外部協力者13名	1日
3		第15期 SP基礎講習会 開催	2名参加(内1名はSP)	3
2021		4	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(病棟での初回面談・服薬説明)	36名
	5	実務実習事前実習のシナリオ勉強会実施(在宅医療)	30名	5
	5	実務実習事前実習に参加(病棟での初回面談・服薬説明)	36名 延べ約220名	72
	6	実務実習事前実習に参加(在宅医療)	30名 延べ約100名	36
	7	第16期 SP基礎講習会 開催	6名参加	5
	9	多職種連携教育(IPE)ゼミナールのシナリオ勉強会	26名 延べ約35名	3
	9~10	多職種連携教育(IPE)ゼミナールへ参加	26名 8名/1回 延べ約50名	3
	11	実務実習事前学習IIのシナリオ勉強会	42名 延べ約50名	3
	11	OSCEのシナリオ勉強会	33名 延べ約40名	3
	12	実務実習事前学習IIへ参加	42名 延べ約140名	12
	12	第13回 OSCE実施	本学SP研究会会員33名	1日

実習を実施した。この時のシナリオ勉強会は現状通り 3 回で実施し、オンライン実習の方法は、SP は全員大学に来校し、教員の設定したパソコンを用いて学生との実習に臨んだ。コロナ禍以前は 1 日あたり 16 名に依頼していたが、対面で実施するのとは異なり、教員の自室での対応になるため、教員と SP との関係性を考慮し、SP が参加するブースを 8 箇所から 4 箇所に半減させ、依頼人数も 1 日あたり約 8 名に縮小した。

実習に参加した SP の人数は、コロナ禍以前は、多い時で 56 名延べ約 800 名であったが、実習の場面の縮小もあり、コロナ禍では 42 名延べ約 510 名であった。

SP 研究会への入会希望者は増加し、今までは年 1 回開催していた基礎講習会が、2020 年以降 4 回実施し新規 SP を 13 名お迎えした。

SP の集合場所には、その入り口に手指消毒用アルコールを、教室内の机には手指消毒用アルコールとアルコールタオルを設置し、頻繁に清拭可能とした。

#### 4. オンライン実習導入の利点・欠点

日本におけるコミュニケーション文化についても考える。日本は、その場の状況や人間関係などの文脈上への依存度が高い「高コンテクスト文化」である。すなわち、対面により相手の顔色を伺いながら、相槌による会話の促進がなされており、日本固有の「共話」が、コミュニケーションにおける大きな意味をなしている<sup>11)</sup>。ただし、日本人の間で特に世代間で価値観の変容もある。幼少期から情報コミュニケーション技術 (ICT) の進歩により、電子メールはじめ電子コミュニケーションツールの中にいる若年層には、伝統的な日本型コミュニケーションは通じなくなっている。

将来的に遠隔医療を目指した遠隔栄養教育に関する報告では<sup>12)</sup>、遠隔医療システムの利点は、外出困難な人への教育にもそこに出向く必要がないこと、対面では距離が近すぎて「緊張する」「恥ずかしい」一方、時間帯を気にせずに行うことができることが挙げられている。欠点は、操作をマスターするのに時間がかかる等、PC 操作に関するハード面の問題が挙げられていた。また、この報告の学生の意見には「知識の伝達だけではないことを実感した」とあり、医療コミュニケーションは、単なる情報提供に留まらないことを述べている。

総務省は遠隔医療の普及促進に向けて、「遠隔医療モデル参考書」を平成 23 年に公表している。その報告によると、「対面診療の方が良い」と回答した方は、平成 30 年度の調査では 14%、令和元年度の調査では 18% であり、対面の方が良いと思っている患者は一定数いることが見えてきている<sup>13)</sup>。単に遠隔医療システムを導入し設定しただけでは効果が得られるものではなく、供給体制、メンテナンス、人的な関係があってこそ初めて有効に活用されることが重要なのである。

2021 年 10 月、2 年次の IPE ゼミナールで SP 参加型 ZOOM によるオンライン実習を実施した。SP の中には自宅からでも十分対応可能と申し出て下さる方もいる。しかし SP 同士の良好な関係のためにも来校を前提とした。

コロナ禍でのオンライン実習の報告数は多く<sup>14)</sup>、中には SP 参加型実習に関する報告もあり<sup>15)</sup><sup>16)</sup>、いずれもオンライン実習の今後の活用に活路を見出している。しかし、オンライン実習に切り替えるには、ファシリテーターの育成や環境の設定に時間を要する等、次なる課題も見えてきた。

#### 5. まとめ

SP が実習に参加して下さった理由に、2021 年 4 月から高齢者へのワクチン接種が始まったこと

もタイミングが良かった。一方で、退会を希望された方の理由は、高齢・病気療養であることが多数に対し、SP基礎講習会を受講後SPの経験をすることなく退会された方もおり、活動歴の短い方への対応は今後の課題である。しかし、再開に向けてSPとしての意欲低下を回避できたことは、SPのコロナ禍対策は効果があったと考えられる。SP参加型実習の再開に先立って、2021年4月にシナリオ勉強会を開催した時の皆さんのことが忘れられない。待ち望んだ対面実習の再開に喜びが

表3 主な新型コロナウイルス感染症に関連する情報とその情報源

日付	内容	情報源
2020年1月6日	中国武漢で原因不明の肺炎 厚生労働省が注意喚起	厚生労働省
1月15日	日本国内で初めて感染確認 武漢に渡航した中国籍に男性	NHK
1月30日	「国際的な緊急事態」を宣言	WHO
1月31日	新型ウイルスによる感染症「指定感染症」に	NHK
1月後半	店頭ではマスクが品薄に。除菌スプレーや除菌シートなどの衛生材料にも影響が出る。	朝日新聞
2月	使い捨てマスクだけでなく、トイレトペーパーやティッシュペーパーが店頭で品薄になった。	朝日新聞
2月11日	新型ウイルスを「COVID-19」と名付ける	WHO
2月27日	「全国すべての小学校、中学校、高校、特別支援学校への臨時休校要請」の考え公表	政府
3月3日	経産省「トイレトペーパー在庫十分 落ち着いて行動を」	経産省
3月9日	専門家会議「3条件重なり避けて」と呼びかけ (①密閉 ②密集 ③密接)	新型コロナウイルス感染症対策専門家会議
3月17日	新型コロナウイルス感染症COVID-19 診療の手引き	厚生労働省
3月19日	「感染拡大地域では自粛検討を」	専門家会議
3月23日	小池知事「都市封鎖(ロックダウン)」に言及	東京都
3月24日	東京五輪・パラリンピック 1年程度延期に	NHK
3月25日	小池知事 緊急会見「週末は外出控えて」	東京都
3月26日	特措法に基づく対策本部設置	政府
3月30日	小池知事 緊急会見「夜間の酒場 出入り控えて」	東京都
4月1日	「全世界からの入国者に2週間の待機要請」決定	政府
4月7日	7都道府県に緊急事態宣言「人の接触 最低7割極力8割削減を」	NHK
4月11日	7都道府県の企業に「出勤者7割減」を要請するよう指示	首相
4月16日	「緊急事態宣言」全国に拡大 13都道府県は「特定警戒都道府県」に	NHK
4月16日	全ての国民対象に一律1人あたり10万円を給付する考え表明	首相
4月17日	アベノマスクの配布が東京都内の一部で開始。	朝日新聞
5月25日	緊急事態の解除宣言 役1ヶ月半ぶりに全国で解除	NHK
6月19日	都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和	NHK
6月19日	濃厚接触の疑い通知するアプリ 利用始まる	NHK
12月12日	病床ひっ迫 5都道府県が「ステージ4」に”医療の供給体制が機能不全の恐れ”	NHK
12月22日	24日以降日本人以外イギリスからの入国禁止	日本政府
12月26日	全世界からの新規入国28日から1月末まで停止	政府
2021年1月7日	1都3県に緊急事態宣言	菅首相
1月7日	緊急事態宣言を受け「緊急事態措置」決定	東京都
1月15日	入院勧告応じない患者に罰則へ 新型コロナ	厚労省
1月28日	日本からの渡航を再び原則禁止に 日本の感染拡大で	EU
2月14日	新型コロナワクチン 国内初の正式承認 米ファイザー製	厚労省
2月17日	新型コロナ ワクチン先行接種始まる 医療従事者 約4万人対象	NHK
3月18日	首都圏 1都3県の緊急事態宣言 21日で解除	政府
4月12日	高齢者へのコロナワクチン接種始まる	NHK
4月25日	新型コロナ きょうから3回目の”緊急事態宣言” 4都道府県が対象	NHK
5月6日	首都圏の1都3県 宣言と重点措置 月末までの延長を政府に要請	NHK
5月17日	ワクチン大規模接種 東京・大阪 きょうからネット予約受付	NHK
5月28日	9都道府県の緊急事態宣言 来月20日まで延長を決定	政府
6月1日	ワクチン接種 21日から職場や大学などで始める方針	官房長官
6月17日	「宣言」7都道府県”まん延防止”移行決定 沖縄は「宣言」延長	NHK
6月21日	東京などまん延防止等重点措置に 五輪控え再拡大防止が焦点	NHK
6月24日	心筋炎 「コロナワクチン接種と関連の可能性」	CDC
7月12日	きょうから再び緊急事態宣言(4回目) 五輪控え押さえ込み課題	東京都
9月28日	緊急事態宣言 まん延防止等重点措置 30日全て解除決定	NHK
10月17日	新型コロナワクチン 全人口の74%余が1回接種 2回接種は66%余	NHK
10月30日	ファイザーワクチン接種可能年齢を5~11歳に拡大	FDA
12月1日	コロナワクチン3回目の接種 今日から医療従事者対象に開始	NHK
12月24日	「モルヌビラビル」新型コロナの飲み薬として正式に承認	NHK

隠せない様子と、若者の集まる大学に来ることによる感染の恐怖を覚えつつも感染対策に必死な姿に、医療系大学東京薬科大学の「正しい感染対策」の啓蒙活動の重要さと責任の重さを実感した。オンライン実習や遠隔診療システムが実現するためには、そのシステムに関わる教員、学生、SP、医療従事者、患者等の関係者間での連携の下には、良好な関係が築かれていることが大前提であることには間違いない。コミュニケーション教育において、オンライン実習の導入は有効であることには間違なさそうだが、全面的に対面から切り替えるか否か、結論が出るには、もう少し時間がかかりそうである。いずれにせよ、コミュニケーション教育には、SP参加型実習は有用であり、本学独自のSP研究会の存在は、本学の財産であると実感している。

2020年1月以降、COVID-19により、世界中で多くの社会問題が浮き彫りになった(表3)。そして今もまだ、変異株の出現に怯えつつ、感染者数の増減に一喜一憂している。このような状況下でも、SPとして参加して下さる皆様に心から感謝を述べたい。一日も早くCOVID-19の混乱から解放され、差別のない、安心・安全な社会生活を送れる日が来ることを心から祈るものである。

#### 参考文献

1. 厚生労働省 HP
2. 国立感染症研究所 HP 掲載 2020/5/3 修正 2020/5/20
3. 青木久恵, 窪田恵子, 三好麻紀, 前田三枝子, 町島希美絵, 寒水章納. 一般市民が模擬患者ボランティアに参加する動機と継続するための課題. 福岡女学院看護大学紀要 2014, 5:1-10
4. Lok Ping Wong, Wing Hong Chui, Yan Yuen Kwok. The Volunteer Satisfaction Index: A Validation Study in the Chinese Cultural Context. Soc Indic Res (2011) 104:19-32
5. 吉田渉人, 徳田智代. 対人支援ボランティアにおけるボランティア満足とバーンアウトの関係. 久留米大学心理学研究 2012, 11:108-116
6. 田尾雅夫, ヒューマン・サービスにおけるバーンアウトの理論と測定. 京都府立大学学術報告「人文」第39号 99-112
7. 堀部紗世, 大西憲明, 高良恒史, 横山照由. 京都薬科大学大学院におけるコミュニケーション教育. 臨床薬学演習への模擬患者の参画とその有用性. 医療薬学 2004, 30(8):529-535
8. 鈴木玲子, 高橋博美, 常盤文枝, 藤田智恵子, 山田皓子. コミュニケーション学習にSP (Simulated Patient) を取り入れた教育技法の開発. 埼玉県立大学紀要 2003, 4:19-26
9. 刑部万寿美, 原田千代子, 吉田千鶴子. 模擬患者 (Simulated Patient: SP) 参加型授業の効果について. 豊橋創造大学紀要 2012, 16:115-123
10. 鈴木富雄, 阿部恵子, 佐藤元紀, 伴慎太郎, 松井俊和, 石原慎, 大槻眞嗣. 模擬患者 (SP) 参加型診療シミュレーション実習の意義-2 大学3年間の学生による評価調査から-. 医学教育 2014, 45(2):69-78
11. 三宮真智子. 思考・感情を表現する力を育てるコミュニケーション教育の提案: メタ認知の観点から. 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 2004, 19:151-161
12. 井部奈生子, 鈴木舞子, 岡田良明, 木下敦, 坂藤由紀恵, 良永裕子. Web会議システムを用いた遠隔栄養教育の検討. 日本食育学会誌 2015, 9(3):229-238
13. 総務省情報流通行政局地域崇信振興課: 遠隔モデル参考書-オンライン診療版-令和2年5月 [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000127781.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000127781.pdf)
14. 有田悦子, 竹平理恵子. オンライン医療面接「患者心理とコミュニケーション」の試み-教育効果と留意点-. 2020, 日本薬学教育学会 J-STAGE 早期公開:1-5
15. 野田幸裕, 末松三奈, 高橋徳幸ら. コロナ禍において実施したオンラインでの模擬患者家族参加型多職種連携教育. 薬学教育 2021, 第5巻, 1-9
16. 幕内安弥子, 栲野吉弘, 奥山直木, 福本一夫, 並川浩己, 豊田宏光, 鎌田紀子, 首藤太一. オンライン模擬患者参加型コミュニケーション教育における思わぬ成果と弊害. 医学教育 2021, 52(3):278-279